



安藤眼科医院

ANDOEYECLINIC

Annual Report 2023

医療法人社団 安藤眼科医院

高度な医療 そして やさしい心配り
患者様の明るい世界、輝く笑顔が見たいから成長し続けます



iPhone SE3にて撮影

- ◇安藤眼科医院
〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 965-1
TEL0465-83-4545
- ◇安藤眼科医院小田原クリニック
〒250-0862 神奈川県小田原市成田 168-5
TEL0465-38-0344
- ◇安藤眼科医院南足柄クリニック
〒250-0105 神奈川県南足柄市関本 569 ヴェルミ 2 1F
TEL0465-73-1515

<https://www.andoganka.com>

info@andoganka.com

目 次

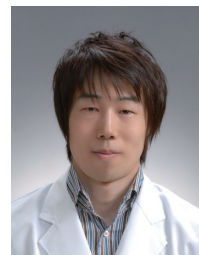
院長挨拶	理事長・院長	安藤 浩	1
眼科学会のハイブリッド化	副 院 長	江口 亮	2
節電とは・・・	医 長	石川 暢子	3
この夏、元気に乗り切りました	医 長	戸野塚敏恵	3
2023年に行われた手術			4
学会発表			5
論文			5
学会・勉強会			5
2023年の思い出			5
小田原地区に多い浅前房	医 長	近藤 亜紀	6
エリザベスサンダースホーム	医 長	辻 明	6
医師会・眼科医会			7
私の名前はポーポキ	事務部長	加藤 晃仁	7
ChatGPTで遊ぶ	理事長・院長	安藤 浩	8
改装・修理・点検			9
汚いけど綺麗な虫	検査部長	井上 拓己	10
成年年齢を迎えて	手術室長	木村 智嘉	10
スマートマットによる業務の効率化	事 務	五十嵐優希	11
在庫管理システムについて	看 護 師	露木 ちか	11
戦争の理不尽	名誉院長	安藤 展代	12
仕事で大切なこと。	小田原事務責任者	鈴木 雅美	13
私のアグリシャス	南足柄事務責任者	飯山百合子	13
お勧め映画	松田事務責任者	関 麻子	14
眼鏡はファッション？	視能訓練士	白井 良	14
ひとみすつきり号運行			14
ひとみすつきり号（送迎車）担当を振り返って			
	事務兼小田原すつきり号マネージャー補佐	土屋 志帆	15
患者様の目線で	ドライバー	井上 克視	15
新入職員に聞きました。安藤眼科医院はいかがですか？			15
安藤眼科医院に入職して	看 護 師	財原 愛佳	15
安藤眼科医院に入職して	事 務	福山 千恵	16
安藤眼科医院に入職しての感想	臨床検査技師	羽山 和希	16
安藤眼科医院に入職して	臨床検査技師	藤野 佑美	16
スタッフ			17
2023年皆勤賞			17
退職者			17
編集後記			17

表紙写真撮影：編集長 成瀬 弘紀

裏表紙と鳥の写真撮影：検査部長 井上 拓己

院長挨拶

理事長・院長 安藤 浩



安藤眼科医院のアンニュアルレポートをお読みいただきありがとうございます。2023年の安藤眼科医院は、前年に引き続き前進を続けることができました。地域にお住まいの人々、地域社会の医療及び保健にご尽力いただく行政や民間の方々、眼科および他科のクリニック、総合病院、大学病院の先生方、医療機関のコメディカルの方々、薬局や眼鏡店などの人々など、多くの人々のご協力や存在のおかげで、当院の眼科診療が成り立っています。本当にありがとうございました。また、来院した人々に明るい未来を開きたいという情熱を、当院職員全員が持っています。その情熱に突き動かされて日々の診療を全力で行ってくれる当院職員に、私は常に感謝し続けています。

2023年での当院の最大の出来事は、東海大学から辻明先生をお迎えできたことです。辻先生は、以前から非常勤として月数回の診察を当院で行っていました。患者様や職員の評判がとても良く、いつか当院に常勤医師として来ていただこうと当院としては画策を続けておりました。お会いするたびに暗に当院の診療体制の強さを宣伝し、雑談をするたびに朗らかに当院での歓迎の意を伝えてきました。もちろん、大学病院医師の重責を担われている先生が、あっさりと転勤できるわけではなく、長くにわたって当院からの誘いは報われませんでした。しかし、このたび、東海大学大磯病院の閉院（経営移管）に伴い、当院と辻先生のご縁が実ることになったわけです。大学病院勤務経験からくる重厚な診療概念、硝子体手術を含む多くの診療経験からくる信頼性、温厚な性格からくる穏やかな説得力と、当院の診療体制を大幅に強化できる大型新人(?)獲得となりました。もともと当院で診療をしている、江口、石川、戸野塚、近藤、安藤展代で、すでになりに強力な医師布陣だと感じていたのですが、これに辻明先生が加わったことで、診療体制の厚みも広さも明らかに拡充されました。これからも各医師の強みを活かして、最強の診療体制を作りたいと思います。

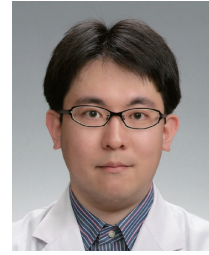
緑内障診療はMIGS（極小侵襲緑内障手術）の発達に伴い、診療方針の変化が著しい分野の一つです。過去においては、点眼薬治療を限界まで行ってから手術を考慮するのが基本でした。ところが、現在に至りi-StentWや前房侵入繊維柱帯切開術、隅角へのレーザー治療、新しいデバイス（プリザープロマイクロシャント）を用いた線維柱帯切除術等、多くの低侵襲治療法が確立されたために、治療に対する考え方が大きく変化しました。緑内障のタイプ、白内障治療との兼ね合い、基準眼圧と目標眼圧、全身的な体力などを総合的に考慮して、点眼治療に先んじて手術治療が選ばれることも多くなってきています。実際に、当院での近年の緑内障手術件数はあきらかな増加傾向にあります。月一回来ていただける新家眞先生の力をお借りしながら、最先端の、正しい緑内障診療を目指しています。

黄斑疾患、計画的治療レベルでの網膜硝子体疾患および手術、水晶体・眼内レンズ脱臼例を含む難治の白内障関連疾患、ICLを含む屈折矯正手術と、当院の医療は幅広い範囲を取り扱っております。科学の進歩とともに成長し、責任のある医療を今後も続けていきたいと思っています。そして、我々の行う眼科医療が、地域の人々の笑顔と明るい世界を作れるように、尽力したいと思います。

当院は、地域での眼科診療の要となれるように、日々努力を続けて参りますので、ぜひ皆様のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。これからも安藤眼科医院をよろしくお願い申し上げます。

■眼科学会のハイブリッド化

副院長 江口 亮



コロナ発生からすでに4年近くの時を経て、スポーツイベント・音楽イベントなどで人々が熱狂し、街中には外国人観光客があふれ、ようやくコロナ禍前の社会生活が戻ってきたように感じます。ただ、コロナ禍をきっかけに発展し、コロナ後もそのまま定着しそうな習慣があります。その一つが学会のハイブリッド化です。つまり通常通りの学会（リアル学会）と、会場の発表と同時のインターネットでの放映（Web視聴）、さらに後日でも映像のアーカイブが見られる（オンデマンド）、この組み合わせで行われる学会が急速に増えました。

ハイブリッド学会には様々なメリットがあります。まず、オンラインの導入により、遠方から（もちろん海外からでも）でも簡単に参加できるようになりました。これは地方に住んでいる方や、子育てや介護、仕事などで忙しい方にとって非常に有益で、しかも学会会場までの交通費、宿泊費がかからないため経済的にもメリットが大きく、学会参加のハードルが確実に下がるでしょう。先日の学会で実際に新幹線での移動中にあるセッションをスマホで視聴しましたが、ときどき接続が乱れるものの、比較的快適に視聴することができました。

次に、後からでも見ることのできるオンデマンドのおかげで、参加したいセッションの時間帯が重なっている時でも両方を聴講できるようになりました。しかも、わかりにくければ関連資料などを別の画面で表示しながら何度でも繰り返し見ることができますし、また、動画のスピードを上げることができるため最近流行りのタイパ（時間対効果）の向上も図れます。

もちろん、メリットだけではなくデメリットも存在します。当然ですが、臨場感はリアルでの学会にとても敵いません。だいぶ前の講演でもその場所、雰囲気を含め内容を鮮明に記憶していることは珍しくなく、オンラインではそのあたりの印象がどうしてもかなり弱くなります。また、リアルな学会の場合、現地で他の Dr. などとちょっとした会話や食事などで交流を深めることができ（むしろこれがメインで学会に参加される先生方も多いかも？）、これはオンラインでは逆立ちしても無理なことです。そういったアンオフィシャルな場での交流から新しいアイデアや共同で行う仕事などのきっかけが生まれやすいことは想像しやすいでしょう。

では、これからもハイブリッド学会は続くでしょうか。音楽コンサートやスポーツイベントでは特にリアルでのライブパフォーマンスの価値が大きく、オンラインからリアルへの揺り戻しが見られていると言われています。各社からさまざまなVR（バーチャルリアリティ）用のデバイスが発表されていますが、現在のところゲームとしての用途が圧倒的に大きく、医療分野においてVRはせいぜい教育や手術補助などに生かされる程度で大人数が参加する学会などでは活用されていません・・・と思い調べてみたら今年日本心臓血管外科学会学術総会においてメタバース空間で周囲の人（アバター）と交流しながらライブ配信を見るという試みが行われていました（すごいぞ、心臓血管外科学会！）。

ハイブリッド学会は参加者のメリットは大きいものの、主催者側の配信用の追加コストが大きいという話も聞きます。一時流行ったオンライン飲み会やオンライン旅行体験などが、実際に飲み会や旅行が行える現在ではもうすっかり下火になっているところを見ると、リアルに勝るものはないということでオンライン配信を取りやめる学会が増えるかもしれません。結局、人間は社会的な生物なので友達や知り合いとわいわい語り合うという共通体験の価値が思いのほか大きいということかもしれませんね。

■ 節電とは…

医長 石川 暢子



東日本大震災以来、特に昨年秋から電力供給が不安定になるとの事で節電が推奨されるようになった。駅の通路やスーパーなどで節電目的に照明が減らされ、一時期は薄暗い中で歩いたり商品を選んだりすることになり、夜盲症やロービジョンの方にとって厳しい環境だったと思う。その節電がどの程度効果的だったのかよく分からないうちに猛暑の夏が始まり、熱中症予防には適度な冷房を、と言われるようになった。電力供給量を心配したが、電気料金が上昇したものの停電になる事も無く照明は少し明るくなって季節は秋に変わった。工場や商業施設、交通機関、たくさんの一般家庭での電力需要はどのように捌かれていたのか、国民一丸となって頑張った節電効果が莫大だったのか、電気料金は供給量に反映された訳では無いと思うのだが、謎である。どなたか知っている方に教えて頂きたいと思う。

節電と言えば自家発電と考える人は多いようで、バイク型の自家発電装置が通信販売のサイトに掲載されていたので人気と書かれていた機種のパワーは無く、30分漕いでスマホ充電残量が30%増えるのが目安との事だった。運動にもなって一石二鳥と思える商品だが、ダイエットに効果があったと書いた人は居なかったようで掲載されていなかった。災害時の通信手段としてスマホは重要なツールであり、その電源が確保されるとすれば安心だろう。職場に1台あれば普段から職員が休憩時間にスマホを充電して安心して帰宅できると思う。モバイルバッテリーの処分方法が問題になっている事もりなかなか良いものかもしれない。本体価格という設備投資を回収する事は恐らく難しいが、防災や福利厚生に役立つのではないだろうかと思像してみた。いかがでしょうか？

■ この夏、元気に乗り切りました

医長 戸野塚 敏恵



みなさん、エンセファリトゾーンってご存じですか。今年、私も初めて耳にした言葉です。それは、Encephalitozoon cuniculi という病原性微胞子虫による動物の感染症です。今年5月、我が家のウサギ モカがうっ滞（食欲低下）となり綾瀬にある動物病院を受診しました。採血や画像検査を行った結果、モカは感染していることが判明。どうやら大半のウサギが感染しているらしくしかも『感染していても発症しない』ことがほとんどらしいです。症状としては神経症状と眼症状があります。

さて、うちのモカ、担当医師の説明ではエンセファリトゾーン感染により軽い神経症状（眼振やめまい）が起こり、そのために食欲低下したのではないかとのこと。エンセファリトゾーン胞子体の量により症状の有無・重症度が決まるそうなので、早速増殖抑制の投薬が始まりました。

今は月に1度、綾瀬に通院中です。毎朝0.5ccのお薬シロップを飲ませています。時々、動物病院で斜頸のウサちゃん（神経症状の一つ）や白内障のウサちゃん（眼症状の一つ）に会います。そろそろ9年目になるモカはおばあちゃん。今年の夏はひどい猛暑でしたが幸い、モカは元気に過ごしています。まだまだ投薬は続くようですが、健康に気を付けながらこれからも仲良く過ごせたらと思う日々です。

蛇足です。今年9月から飼い主の長女が運転はじめました。今まで綾瀬まで私が運転していましたが、今後は娘一人で連れていくそうです。モカも気になりますが娘の運転のほうが親としては気になります…

2023年に行われた手術

2022年12月から2023年11月までの手術件数は3621件でした。

内眼手術	2023年	2022年比
水晶体再建術	2945	1.03
自由診療（マルチ）	5	1.56
選定療養（マルチ）	132	
緑内障手術	442	1.07
硝子体手術	34	0.94
合計	3421	1.04

外眼手術	2023年	2022年比
翼状片	33	0.43
眼瞼手術	58	0.76
霰粒腫	15	1.25
PTK	7	0.32
その他	9	0.60
合計 (b)	122	0.60

屈折矯正手術	2023年	2022年比
ICL	23	1.92
LASIK	8	1.33
SMILE	47	0.67
PRK	0	0.00
エンハンス	0	0.00
合計 (c)	78	0.86

硝子体注射	2023年	2022年比
バビースモ	176	9.26
ベオビュ	23	1.15
ルセンチイス	104	1.13
アイリーア	1062	0.93
合計	1365	1.07

手術合計 (a+b+c)	3621	1.01
--------------	------	------

マキュエド後部 テノン嚢内注射	27	1.29
ボトックス	33	1.27

2022年12月から2023年11月までの手術件数は3621件、前年比1.01でほとんど変わらなかった。水晶体再建術件数は前年比1.03でこれもあまり変わらないが、(内数の)多焦点眼内レンズ手術は増加(1.56)している。水晶体再建術全例に対する多焦点眼内レンズ手術の比率は前年3.1%に対して今回は4.7%と増加し、選定療養が歓迎された結果と考えられる。屈折矯正手術は減少傾向(0.83)で、特にSMILEが減少している。しかしICLは増加しており、これは屈折矯正全体の傾向を反映しているのかもしれない。外眼手術が減少したが、内眼手術、硝子体注射に押されて手術枠や術者の時間の確保が難しくなっている面もあり、待機時間が長くなっている。

術中トラブルを見ると、破嚢は19眼(0.64%)で起こった。破嚢率はAnnual Report2019が1.2%、以後年ごとに0.7%、0.8%、0.67%、今回0.64%と、優位検定はしていないが、減少傾向なのかもしれない。術者の技量はまだ向上できるのかもしれない。19眼のうち予定通りの眼内レンズ(IOL)を入れたもの8眼、IOLを変更したもの7眼、IOLを入れずに終了したもの3眼であった。毛様小帯脆弱のため予定通りの手術ができなかった症例は9眼(0.30%)で、水晶体全摘出したもの7眼(うちIOLを入れなかったもの6眼、IOLを逢着したもの1眼)、IOLを変更して挿入したもの2眼であった。

安藤 展代 木村 智嘉

■学会発表

第 127 回日本眼科学会総会モーニングセミナー 9

白内障だよ全員集合ー紹介元もサーजनもー 座長 大鹿哲郎先生 筑波大学
「紹介先が“重視している”ポイントに集合ー紹介先・紹介元双方でブランディングを重視するー」 安藤浩

8 月 5 日 第 39 回 CSE 研究会 (東京)

演題名: 角膜インレー挿入眼の白内障手術 近藤亜紀

■論文

多焦点眼内レンズ 7 種の術後視力の多重比較

安藤展代 安藤浩 江口亮 石川暢子 戸野塚敏恵 近藤亜紀

Comparison of Postoperative Visual Acuity in Eyes with Seven Types of Multifocal Intraocular Lenses

Nobuyo Ando, Hiroshi Ando, Ryo Eguchi, Nobuko Ishikawa, Toshie Tonozuka and Aki Kondo

■学会・勉強会

- | | |
|-----------------|---|
| 1 月 27 日～ 29 日 | 日本眼科手術学会学術総会 (東京)
安藤浩 安藤展代 江口亮 石川暢子 戸野塚敏恵 近藤亜紀 |
| 2 月 9 日～ 11 日 | 日本角膜学会総会 (横浜) 石川暢子 近藤亜紀 |
| 4 月 6 日～ 9 日 | 日本眼科学会総会 (東京)
安藤浩 安藤展代 江口亮 石川暢子 戸野塚敏恵 近藤亜紀 辻明 |
| 6 月 22 日～ 24 日 | JSCRS 学術総会 (札幌) 安藤浩 安藤展代 江口亮 近藤亜紀 |
| 7 月 7 日～ 9 日 | フォーサム 2023 (仙台) 石川暢子 |
| 8 月 5 日 | CSE 研究会 (銀座) 近藤亜紀 |
| 9 月 8 日～ 10 日 | 日本緑内障学会 (東京) 安藤浩 安藤展代 近藤亜紀 辻明 |
| 10 月 6 日～ 9 日 | 日本臨床眼科学会 (東京)
安藤浩 安藤展代 江口亮 石川暢子 戸野塚敏恵 近藤亜紀 辻明 |
| 10 月 28 日 | CAOS の会 八王子友愛眼科 (八王子) 安藤浩 |
| 11 月 24 日～ 26 日 | 日本網膜硝子体学会総会 (横浜) 安藤浩 江口亮 戸野塚敏恵
近藤亜紀 辻明 |

■ 2023 年の思い出

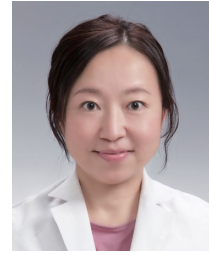
- | | |
|-----------|--|
| 1 月 23 日 | i care home2 および i care ic200 納品 |
| 1 月 24 日 | Konan Specular Microscope XX
(角膜内皮細胞撮影装置) へ入れ替え |
| 3 月 1 日 | 辻 明先生常勤として勤務 |
| 4 月 21 日 | 春の防災訓練 |
| 5 月 1 日 | 愛 to eye 第 16 号発行 |
| 5 月 19 日 | ランチミーティング |
| 9 月 22 日 | 多焦点眼内レンズ Vivity 説明会 |
| 10 月 20 日 | 秋の防災訓練 |
| 11 月 17 日 | インフルエンザワクチン接種 |



Nikon COOLPIX900 にて撮影

■小田原地区に多い浅前房

医長 近藤 亜紀



当院の患者様は浅前房の方が多いようです。そのため急性緑内障発作も多く、私が初診を担当した患者さんだけでも即日白内障手術となった方が当院勤務の3年間で1度や2度ではありません。2023年9月に当院で行った白内障手術症例217例を検討すると、原発閉塞隅角症(PAC)もしくは原発閉塞隅角症疑い(PACS)が48眼(22.1%)でした。内訳は、PACで準緊急に手術を行った症例が9眼(4.1%)、PACSが39眼(18%)でした。PACSのうち視力低下がない症例が16眼(7.4%)、視力低下がある症例が23眼(10.6%)でした。急性緑内障発作の症例はありませんでした。

白内障手術症例全体の7.4%にあたる視力の良いPACSの方々に白内障手術を勧めることは容易ではありません。PACについて、急性緑内障発作の機序や実際の発作時の症状について、白内障手術がなぜ有効なのか、他の対処法としてレーザー虹彩切開術(LI)があること、LIの合併症や長期予後について、それらの処置を行わない場合のリスクについて…など多岐にわたる説明を行う必要があります。それを予備知識ゼロの全く「青天の霹靂」といった表情の患者様に行わねばならない場合がほとんどです。通常の白内障手術に比べて手術時年齢が若い傾向にあるため、術後近方裸眼視力の低下に不満を持つ方もいます。多焦点眼内レンズにしても水晶体の見え方には及ばないのか不満が残り、片眼の手術が済んだ時点でもう片眼の手術は拒否され縮瞳剤で経過観察となった方も複数います。当院勤務以前は月に1名対応すれば多い位だったため、初めは説明にとっても時間がかかっていました。この1年間ほどでやっと要点を抑えて最小限の時間でお伝えできるようになりました。段々上達してきたのか、視力良好な方でもご納得し手術を決断し、術後も喜んで下さる方が増えたように感じます。

■エリザベスサンダースホーム

医長 辻 明



私が永らく勤めた大磯町で印象的だったエリザベスサンダースホームを紹介します。

澤田美紀という人が1984年に作った孤児院で大口寄付者の名前が付けられました。主に混血児の乳児を收容し18歳まで養育しました。大磯駅前に東京ドーム2.8個分の敷地があり、開設後すぐに100名も預けられました。澤田さんは三菱財閥創業者の岩崎弥太郎の孫です。敗戦後の頃、澤田さんが東海道線に乗っていたところ網棚から新聞紙に包まれた混血児の嬰兒の遺体が落ちてきました。当時米兵と日本人女性の間生まれた赤ちゃんを捨てることは珍しくなかったもので、澤田さんが捨て子をしたのだと警察に疑われ「私が出産したばかりの身体かこの場で調べてもらおうか!」と啖呵を切ったそうです。そういう豪快で勝気な人です。この事件が孤児院を作るきっかけとなりました。当時の日本は極度の貧困だったため、羽振りのよい米兵と暮らす女性を妬ましく思い、米兵が帰国する時に置き去りにされてしまう女性や赤ちゃんを非常に侮蔑するという、今では考えられない風潮が捨て子につながりました。澤田さんは孤児たちを絶対に卑屈にさせないという強い信念で育てました。一般水準より広い部屋を用意し、良い服装をさせ、ご飯を十分に食べさせること、厳しく躾けるということでした。近所の人は空腹で倒れそうな時代に孤児たちが毎日おやつを食べているのがとてもうらやましかったとか、孤児にかかりつきりだったので澤田さんの子供は自分たちが放置されて本物の孤児みただったと言います。孤児が嘘をついたり約束を守らないと澤田さんに棒や靴で叩かれたので本物の厳しい親のようだったそうです。現在も児童養護施設、私立小中学校として存続していて、併設の澤田美紀記念館は誰でも見学できます。

■ 医師会・眼科医会

- 5月5日 小田原休日急患診療所 安藤展代
4月～6月 学校検診
安藤 浩：神奈川県立大井高校、立花学園高校、松田幼稚園、松田小学校、松田中学校、寄幼稚園、寄小学校
江口 亮：神奈川県立吉田島高校、山北高校、岡本小学校、岡本中学校、中村小学校、井ノ口小学校、中井中学校
石川 暢子：大井幼稚園、大井第二幼稚園、大井小学校、上大井小学校、湘光中学校、相和幼稚園、相和小学校、川村小学校
戸野塚敏恵：南足柄小学校、岩原小学校、山北中学校
辻 明：大磯町国府中学校
7月28日 足柄上医師会定例理事会 安藤浩
9月29日 足柄上医師会定例理事会 安藤浩
10月～12月 就学時前健診
安藤 浩：松田町
江口 亮：岡本小学校
石川 暢子：大井町
戸野塚敏恵：南足柄小学校、北足柄小学校、岩原小学校
12月1日 足柄上医師会理事会 安藤浩

■ 私の名前はポーポキ

事務部長 加藤 晃仁

popoki[pōpoki] = ハワイ語で『ねこ』

私の名前は『ポーポキ』という。

私の『御主人』は安藤眼科医院という眼医者さんの事務長？をしている。昔は仕事ばかりしていたようだが、私の『御主人』になってからは心を入れ替えて早く帰ってくる。よっぽど早く帰って私に会いたいらしい。

帰ってくるとすぐにしっぽの付け根を『トントン』と叩きながら、首まわり、顎の下をやさしくマッサージしてくれる。これがたまらなく気持ちいい。思わず喉が『グルグル』と鳴ってしまう。夜は一緒のベッドで寝るが、私のがのびのびと寝ているのを邪魔しないよう『御主人』は隅っこで寝ている。まあ私のベッドに寝かせてもらっているのだから仕方ない。朝は『御主人』が支度しているとついつい邪魔したくなる。足にスリスリして、目の前でコテンと寝っ転がればイチコロだ。ネクタイを締めている途中でもナデナデしてくれる。これで5分はロスしただろう。仕事に行ってしまうばこちらのものだ。家のものは全て私のもの。まるでジャイアンのような。唯一自由にならないのは、キッチンの高い棚にある『チュール』のみ。あれはたまらない。いつか手の届くところに置くよう『御主人』を躡けよう。

『御主人』と言っても名前ばかり。私にとって彼はただの『手下』でしかないが、『手下』は私のことをとても愛しているようだ。

安藤浩くん、今日も私の『手下』が早く帰れるよう外来も手術も早く終わらせてくれたまえ。

ChatGPT で遊ぶ

理事長・院長 安藤 浩

令和5年で私が最もびっくりしたものは ChatGPT だった。令和4年11月に公開され、遅ればせながら私がある存在を知ったのは令和5年3月で、とりあえずログインしてみてその面白さの虜になった。

このシステムは、ネット上に公開された情報を際限なく学習し続けて、その結果を自然に近い言語で表現し質疑応答ができる。私がまず面白いと思ったのは、その間違えっぷりだった。令和5年4月に確率計算問題を ChatGPT に尋ねてみた。「サイクリングに出かけたい。目的地との往復でタイヤがパンクする確率は 0.0007、チェーンが外れる確率を 0.0008 とする。100 回目的地と往復して、100 回中のどこかで一度でもトラブルが起きる確率を求めよ。」この問いの正解は約 14.5% なのだが、当時の ChatGPT は 5 回質問して 5 回とも不正解だった。間違え方は、掛け算しなければいけないところを足し算することから始まって、パンクとチェーン外れが同時に起こる確率を忘れてたり、中学生の頃に私がやったかもしれない間違いを次々と踏襲していた。回答のもっともらしい解説を読むと正解っぽく見えるけれど、計算式に致命的な間違いが混ざっている。つまり、ネット上にある玉石混淆の情報を集めて、多くの人が行う行為を網羅して踏襲してくれるらしいのだった。眼科用語を ChatGPT に解説させると、びっくりするほど完成度の高い回答の中に、ひょいと間違いが混ざっている。数学や言語の間違いを見ながら、私の頭に、古典落語で熊さん・八つつあんが長屋の長老に質問をしている情景が浮かんだ。長老はだいたい正解を言うが、時々間違えたり、そもそも熊さん・八つつあんの質問が間違っていたりする。そしてじりじりと真実から離れて行った最後に、大間違いのオチが待っている。絶妙に有りそうで無さそうな間違いの間合いを綱渡りするのが古典落語の妙だが、ChatGPT はそこら辺の間合いから逃げたいのに逃げきれずにいる感じがした。

ところが、「ChatGPT の使用方法の第 1 位はプログラミングだ」という情報で私の同アプリに対する印象と使い方がガラリと変化した。私は令和4年まで、「どこかに間違いがあって動かないプログラム」を悔し涙とともに量産していた。タイプミス、元ファイル形式の指定ミス、空欄の取り扱い指示抜け等、ひとつでもミスがあればプログラムは動きを止めてしまうからだ。結局使えるほどのプログラムを作れたことは数本だけで、累積された無駄な時間はとてつもない大きさだった。そこで ChatGPT にプログラムを書かせてみた。擬似ファイルをアップロードし、それに対する処理を順次噛み砕いて言語で指示する。実働試験と、間違いに対するトライアンドエラーも ChatGPT が自動で行ってくれる。そして、出来上がったプログラム内のファイルパスを自身のコンピュータ用に書き換えて保存すれば、ばっちり動くプログラムが完成していた。これは凄まじい力だ。コンピュータで行いたい行為のフローチャートを自分で描き、それを一意に解釈される言葉で順番に表現できれば、作りたかったプログラムがいくらでも作れることになる。欲を言えばフローチャートを ChatGPT に直接読んで欲しいが、それは数年後に期待することにしよう。また、多層的なプログラムを作るには力不足だとプログラマー用の雑誌には書いてあったが、私が直近で求める力はそこまでのものではない。やりはじめてから数ヶ月でプログラムを作るための ChatGPT のコツが掴めてきたので、コンピュータ上でやりたかった作業がプログラム化できる目処がたった。年末から春にかけての私の仕事は、今までとは質の違うものになることだろう。エクセルのファイルがコピペの時に 1 行ずれてしまう恐怖がなくなり、方々から集めてきたファイルの空欄に悩まされることもなく、複数の文書を見比べながら何時間もかけて表を作る必要もない。作業手順を構築し、1 語ずつの言葉に注意をして、文脈をしっかりと組み立てればよい。これは、私の得意な作業だ。今まで私が数時間かけて行ってきたファイル作業が、わずか数秒間でミスの心配もなく完成する姿は本当に壮観だ。枝分かれしながら繰り返す作業をプログラムに任せれば、私は結果の検証と、新たに生まれる疑問に没頭すればよい。そして、次に作りたいモノに思いをはせる時間を手に入れられる。

多分、ChatGPTは凄い。統計によって成り立っているものだから様々な限界はある。しかし、これからも使い道は増えていくことだろう。言語、画像、数値、それらの解釈を混在させて交差させるだけで多くの新しい使い道があると思える。私も暇な時間を使ってコツコツと遊び、面白い使い道を思いつきたい。じわりと進む時代の中に、新しい概念が生まれた気がする。

ちなみに、初めに書いた令和5年4月の「サイクリング」問題について、令和5年10月に、ChatGPTが答えやすいように質問形式を整えて問い直したら、一発で正解がでた。半年で進歩したのは、質問形式を整えられるようになった私なのか、それとも ChatGPT なのか???

■ 改装・修理・点検

松田

1月21日	NAVIS サーバーメモリー増設作業			NAVIS CLR16 リプレイス
2月11日	LAN 工事	8月14日		診察室3 処置室 防犯カメラ点検修理
2月22日	2階倉庫ラック組み立て・ 医局デスク組み立て	8月27日		ワックス掛け
2月26日	ワックス掛け	8月30日		OCT (トリトン) メモリ増設作業
3月3日	診察室5 Amivoice 設置	9月8日		ビジネスフォン本体交換
3月22日	エレベーター定期点検	9月20日		エレベーター定期点検
3月23日	消防設備点検	9月27日		NAVIS サーバー定期点検
3月24日	オンライン資格確認システム設置	10月6日		NAVIS セキュアネット ワークルーター交換
6月14日	エレベーター定期点検	10月18日		NAVIS CL03 入れ替え
6月21日	オンライン資格確認端末設定	11月15日		自動精算機点検

小田原クリニック

1月16日	エレベーター定期点検	7月14日		エレベーター定期点検
1月27日	貯水槽法定点検	7月24日		オンライン資格確認端末設定
2月11日	LAN 工事	7月30日		エアコン点検
2月20日	屋上広告用照明器具点検	8月7日		セコム電波テスト
3月7日	NAVIS サーバー コピー用ハードディスク設置	9月8日		ビジネスフォン本体交換
3月13日	火災報知器部分交換	9月4日		セコム回線切り替え工事
3月21日	NAVIS サーバーリプレイス オンライン資格確認システム設置	9月16日		屋上防水点検
3月26日	ワックス掛け	10月14日		電気設備法定点検
4月17日	エレベーター定期点検	10月18日		NAVIS CL03 入れ替え
5月1日	非常用照明交換 LAN 部分工事	10月23日		エレベーター定期点検
6月26日	防火設備点検	11月6日		1階自動販売機交換作業
7月2日	駐輪場所ロードペイント	11月12日		ワックス掛け
7月10日	正面玄関自動ドア交換	11月13日		建築条例に基づく建築検査
		11月27日		消防立ち入り検査
		12月25日		防災設備点検

南足柄クリニック

1月27日	NAVIS サーバー メモリー増設作業	3月24日		オンライン資格確認システム設置
1月28日	ワックス掛け・外壁洗浄	7月6日		オンライン資格確認端末設定
2月11日	LAN 工事	7月27日		受付 NAVIS 端末
2月17日	NAVIS サーバー バージョンアップ			オンライン資格確認端末設定
2月25日	ヴェルミ2 法定電気設備点検	8月25日		カードリーダーバージョンアップ
3月18日	ヴェルミ2 臨時電気工事	9月8日		松田ビジネスフォン本体交換に 伴う設定変更作業
3月20日	診察室ドクター用 NAVIS 入れ替え 診察室ドクター用 NAVIS imovifa ビューワーソフト設置	10月6日		NAVIS セキュアネットワーク ルーター交換
		10月24日		NAVIS サーバー 端末他現地調査

■汚いけど綺麗な虫

検査部長 井上 拓己

「オオセンチコガネ」という虫がいます。ファーブル昆虫記で有名な「フンコロガシ」の仲間です。「フンコロガシ」はスカラベとも言い、その名の通り糞を転がす為、古代エジプトでは太陽が東から西に運ばれる様子になぞられ太陽神の象徴として崇拝されましたが、残念ながら？日本にいる「オオセンチコガネ」は糞を転がさない為か崇められもせず、便所の古い言い方である「雪隠（せっちん）」がなまり「センチコガネ」と名付けられてしまった可哀そうな虫なのです。しかし、この虫はとても綺麗な色をしています。一般的には赤紫色が多いですが、青系、緑系、赤系と分けられ、それぞれ生息場所が違います。どうして地域ごとで違うのか不思議です。この色の違いは何かと言うと翅の外表皮が層状構造になっており、メラニン色素を含んだ層、メラニンを含まないクチクラ層が並んでいて、それらの厚みの差で色合いが変わる構造色で、各層が薄いと青く見え、厚くなるにつれて緑、そして赤に見えるとのこと。このように虫の色は色素そのものの色ではなく、光の反射の仕方が変わるものも多く大変興味深いです。「オオセンチコガネ」を箱に入れて眺めると、まるで宝石箱のようです。この虫を色覚検査(パネル D-15)の様に並べ替えさせて検査をしたいと思うのは自分だけでしょうか？「オオセンチコガネ」が動物の糞を食べ物にしていなかったら、「玉虫」の様にもっと人間に好かれたことでしょう。



■成年年齢を迎えて

手術室長 木村 智嘉

全くの私事なのですが私が安藤眼科医院にお世話になって、今年で18年が経ちました。

入職する前は、一般のクリニックや病院で臨床検査技師として働いておりましたので眼科の業務・検査、ましてや手術など全く経験したこともないただのちょっと歳をくったド素人新人だった訳であります。そんなちょっと扱い辛気な新人職員を温かく迎え入れてくれた先輩職員の方々や勉強の為学会への出席等を全面的にサポートしてくれた名誉院長や院長には感謝しかありません。皆さんも2022年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられた事はご存じかと思います。いかにも前から知っていましたよ的な感じで書いていますが何となくしか理解していなかったたのでさっきネットの『政府広報オンライン』で詳しく内容を確認したところです。

要するに18歳はもう大人という事になるそうです。果して、眼科で働き始めて18年の私は眼科職員としての大人になれているのでしょうか？ まあ、街で18歳の子を見かけたとして大人だなあとは正直思わないし、そう感じたことも無いです。そもそも、『18歳の子』と書いてしまうくらいですからね。私もまだまだその程度のかわいい『18歳の子』という事でしょう。

これからも安藤眼科職員として歳と経験を重ねてシブい大人になってやろうじゃないですか。

■スマートマットによる業務の効率化

事務 五十嵐 優希

現在、小田原クリニックの手術室で使用されている器材は、スマートマットという在庫管理システムによって管理されております。スマートマットとは四角い様々なサイズが展開されているマットで、その上に器材が入った箱を乗せ、箱の重さや器材の重さによって発注する定数を決定し、定数以下になれば自動で発注されるシステムです。スマートマットを導入するにあたってメリットとデメリットがありますが、私はメリットの方が大きいと考えています。メリットとしては、倉庫にわざわざ足を運ばなくても発注ができる、夏は暑く冬は寒い倉庫内で在庫を数え、発注する数を決定し、各業者さんにFAXする手間が省ける点です。デメリットとしては、器材によってスマートマットを置くスペースがないもの、使用頻度の低いものは手動発注をしなければならないので、全ての器材の在庫管理ができないこと、スマートマットはWi-Fiで接続されているのですが、稀に通信障害が起きる点です。通信障害に関してはサイト上に警告が出るので、すぐに発見し解決ができます。スマートマットの導入により、業務の効率化を図ることが出来たので、今ではスマートマットは私にとって重要な存在です。スマートマットは手術室の器材だけではなく、事務用品の在庫管理にも適していると思うので、今後の活躍に期待しています。



■在庫管理システムについて

看護師 露木 ちか

昨年、小田原クリニック2階の改修工事が終わって間もなく、3階の倉庫にスマートマットなるものが導入されました。簡単に説明すると、スマートマットという重量計にそれぞれの物品を載せておけば設定した時間に計測をして設定数より不足していれば自動的に発注をしてくれるというものです。マットといっても薄っぺらなものではなく、ノートパソコン程の厚さと重さがあり、サイズはA5、A4、A3があります。在庫状況もクラウドでいつでも確認できます。冷所も対応可能です。でも、正確に計測する為1マットに1種類の物品を整然と積まなくてはなりません。そのためスペースと高さが必要になります。当院の手術件数は内眼手術だけでも毎週70～80件ほどあります。白内障手術に必要な物品は担当分だけでも30種ほどで、緑内障、硝子体、外眼を含めると大量です。ですので、全部に対応することはできないのですが主な物品には使用していますので急な休みになっても安心感があります。今後も不足の無いよう、また緊急手術にも対応できるように整えておきたいと思います。みなさんもお周知下さい。小田原クリニック3階の倉庫内と倉庫前にも数台のスマートマットがあります。ほぼ箱単位で計測しています。種類の異なる物品を載せたままにしないで下さい。足元のマットを蹴らないで下さい。マットのボタンを長押ししないで下さい。ご協力をお願い致します。

戦争の理不尽

名誉院長 安藤 展代

4歳の頃私は横浜に住んでいた。第二次大戦末期で、毎晩のように警戒警報、空襲警報のサイレンが鳴っていた。「お寝間着にお着替えをしている場合にはありません、そのまま寝ましょう」母親の声を覚えている。空襲警報が鳴ると母は「のぶよちゃん!!」と叫ぶ。「ハイッ!!」と答えて飛び起きると妹（2歳）を急き立てて庭に飛び降り、防空壕に潜り込む。妹が防空壕の階段を転げ落ちた様子が思い出される。小学校教師だった父親は当時、児童達を連れて郊外に学童疎開しており、母と私と妹が自宅に残っていた。その父親が庭に掘った深さ1mほどの小さなくぼみに母と3人で隠れるのだった。今考えればおそらく何の役にも立たない壕であった。

横浜大空襲の直前に群馬県で暮らす曾祖母の、庵のような小さな家に、祖母、叔母、従弟、そして私たち3人が転がり込んだ。すぐにそこで弟が生まれた。辛くも私たちはそうして生き延びたのだが、商船の乗組員だった叔母の夫（子供だった私の目にもキラキラとして見える素敵な人だった）はその半年ほど前、軍需物資を積んだ船に乗ったまま対馬海峡で撃沈されていた。1歳になるかならないかの従弟を抱えた叔母にはどんなにかつらい日々だったろう。広い田んぼの真ん中で山を見ながらのびのび遊びまわった思い出は懐かしいが、小さな家で親子4代8人の暮らしには相当の無理があり、いろいろな事情の絡み合いにはつらいものがあるのは子供ごころにもわかった。

1946年3月横浜に帰った。かろうじて自宅とその周辺は焼け残っていた。家の前の道路には爆弾が落ちた巨大な穴が開いており、家の窓には焼夷弾の油だという塊がたくさんこびりついていて、4月から小学校に入学したのだが、学校は焼け落ちて土台しかない。そこでサツマイモの薄切りがちらちらと入った味噌汁をふるまわれた。余りにもおいしかったので、1年生の私は勇気を振り絞って「先生、妹にも食べさせたいので連れてきてもいいですか?」と聞いた。それは学校給食の始まりだったらしい。母は私たちを家において毎日のように食料を探しに出かけた。しかし売っているものは極めて少なく、あっても高く買えなかった。何も食べずに歩き回った母が玄関に倒れこんで動けなくなったこともあった。

小学校の同級生には前の年入学できなかった年上の子も混ざっていた。その子たちの中には、空襲の時は運河（当時横浜には運河がたくさんあった）に潜ってしのいだ、という子もいた。親、特に父親がいない子はたくさんいた。大学でも同級生42人のうち父親が戦死しているのが12人もいた。私の夫の父親も戦死、父親の出征後に生まれた弟は父親に会ったことも抱かれたこともない。

終戦記念日頃に良く放映される「火垂るの墓」というアニメがあり、一度は見たが、その後は悲しすぎてもう見られない。戦死した若者、戦災で死んだ者はもちろんつらく悲しいが、戦火を逃れてかろうじて生き延びてもその後を生き抜けない孤児もたくさんいた。

ロシアがウクライナに侵攻したというニュースで、突然私の耳に空襲警報のサイレンの音がよみがえった。4歳の時に聞いたサイレンの音と同じ音に聞こえた。あの頃のことがflash backしてくる。

キーウを脱出する家族を父親が見送る、父親と別れた子供が「パパをキーウに置いてきた。パパはキーウで死ぬかもしれない」と泣きながら歩いてゆく。私は涙をこらえるのがやっとである。外国にいる家族や親戚を頼って避難する人たちを見ると、避難先があつてよかったね、でも行った先ではまた別の苦労もあるよ・・・と他人ごとではない思いにかられる。破壊された町の映像は6歳の自分の見た景色を思い出させ、恐ろしさがよみがえる。あちこちで見かける建築現場の嬉々とした状況、そして出来上がった建物や橋の美しさを見るにつけそれらを一発で崩すミサイルが恐ろしい、そんなことをしてしまう人間をなんて馬鹿なのだろうとやり場のない悲しみを覚える。

そして最近のアラブとイスラエルの戦争のなんと悲惨なこと。数千年も前から彼らの対立は続いており、そこに各国の利権や思惑が絡みさらに話を複雑にしている。どちらも譲れないであろう言い分があることもわかる。



1952年頃 これより前の私達の写真は無い。

人は親を選べないと言われるが、生まれる場所も選べない。本来なら生まれた場所と親の元でそれなり楽しく暮らしたいではないか。その生活を踏みにじるのが誰に許されるのだろうか？「ほとんどの人々」が何気なく楽しく暮らす方法はないのだろうか？

年が変わるにあたり発行される Annual Report は輝かしく楽しい話題で満たしたい。しかしウクライナでの戦争が始まって以来私の心をつかんで離さない悲しみは、突然始まったアラブとイスラエルの戦争でさらに大きくなった。子供の頃の思い出は戦争の悲劇を語るにはあまりにも小さいものだけれど、真の戦争の悲劇を想像することはできる。幸いその後を幸せに暮らした私は、そうできなかった多くの子供たち、今の生活を享受できなかった多くの人々を本当にお気の毒に思う。そしてこうしている今もその悲劇は繰り返され、死んだり絶望したりする人が次々に大量に生み出されている事実を知りながら、何もすることができないむなしさを感じている。本当に何もできないのだが、戦争は理不尽だ、何とかならないのかということだけは一度は言いたくて、あえてこの暗い話を書かせていただきました。

■仕事で大切なこと。

小田原事務責任者 鈴木 雅美

毎日多くの患者様が来院され慌ただしい日常の中、私は小田原責任者として日々起こる出来事に対応しています。責任者の仕事は主に情報の周知、外部業者さんの対応、シフト調整になりますが中でもシフト調整は思っていた以上に難しく頭を悩ませる事が多いです。コロナウイルスが流行し始めた当初は未知のウイルスということもあり何日休みが必要か、濃厚接触者の規定など事務長をはじめ各部署で連日話し合いを続けました。感染者が出る度に濃厚接触者をひろい隔離シフトで更なる感染を防ぐ緊急措置。欠勤者が多い中での制限のあるシフト調整は非常に大変だったことを記憶しています。その大変な時期を乗り切れたのは各部署との連携でした。安藤眼科医院は総合病院などと比べると他部署との垣根が低く、助け合ったり意見交換したりと直接的に動ける事が魅力だと思っています。スタッフ同士で考えすぐに実践に移せるのでスタッフのスキルアップにも繋がります。

医療従事者として勤務しはや 20 年。私は当初から変わらず思っていることがあります。それは『連携』の大切さです。個々では解決できないことも、連携を図り協力し合えばどんな困難も乗り越えられるはずです。その時の為に私は日頃から『声掛け』を重視し、協力の得やすい環境を整え次々におこる問題をクリアしていきたいと思います。

■私のアゲリシャス

南足柄事務責任者 飯山 百合子

皆さん、ワインはお好きでしょうか。

先日、ソムリエの友人に誘われ、スペイン大使館で行われていた CAVA のイベントと、世界のワインとチーズの催しに行ってきました。どんな出会いがあるか、心躍らせ試飲開始！『スモーキーな香りが〜』、『柔らかなタンニンが〜』と通なコメントをする友人に対し、変顔する私。試飲を初めて 2 時間、各国のワインとチーズでお腹いっぱいの方に『ここは絶対だよ！』と友人が更に薦める先は、モルドバ共和国のブースでした。モルドバワイン?? またガソリン臭いんじゃないかと恐る恐る一口。想像と違い、芳醇な香りとまろやかな味に『何これ、すごく美味しい!』と今日一絶賛する私に、ブースの方も友人もニッコリ。美味しいワイン片手に、会話も弾みました。モエ、ドンペリ、クリコなど高級なシャンパンも良いのですが、美味しくて更にコスパの良いモルドバワインとの出会いに感謝し、ワインの知識をもっと増やし、次回は私も気の利いたコメントが言えるようにしたいと思います。ちなみにモルドバ共和国は、ウクライナとルーマニアの間に位置する人口 260 万人の小さな国ですが、5000 年以上も昔からワインが作られ、世界最古のワイン発祥の地だったのです。ゼスプリキウイの「アゲリシャス〜♪」でお馴染みの名曲「♪恋のマイアヒ」を歌ったグループがモルドバ出身だったのも初耳でした。皆さんのアゲリシャスは何ですか？

私のアゲリシャスは美味しいワイン片手に♪マイアヒ〜マイアハ〜と陽気に過ごす事です。

■お勧め映画

松田事務責任者 関 麻子

コロナ禍で外出が制限されていた頃、自宅で過去に観た映画を再度見直す事が多く、試しに何本観たか数えてみたら150本以上もありました。元々映画好きだった両親の影響でジャンル問わず、洋画、邦画共に好きなのですが、その中でもお気に入りの映画を紹介したいと思います。それはスパイアクション映画の金字塔『ミッションインポッシブル』です。最新作は今年公開され既に鑑賞済ですが1996年公開の初回作品がお勧めです。①まずあの有名なテーマ曲、イントロ部分を聴くだけでこれからどんな展開になるの??とテンションが上がります。②スパイ組織通称IMFに所属する極秘任務を遂行する主人公、イーサン・ハント演じるトム・クルーズが格好良い(今見ると若い!)精悍な顔つきで次々と降りかかる困難に立ち向かう姿。所作も美しく思わず応援したくなります。③スパイ映画ならではの劇中に登場する小道具や予測不可能な作戦が面白い。④イーサンが潜入したコンピュータールームで宙吊りになる有名なシーンとラストの列車の上での格闘シーンは何度見てもスリル満載で手に汗握る感じです。見終わった後自分が聞いた訳でもないのに運動した後のような疲労感を感じるので水分補給しながら観るのがお勧めです。⑤ブライアン・デ・パルマ監督による映像が少しレトロでお洒落な雰囲気がある印象。⑥ジャン・レノが出演していたりとキャスティングのセンスが良い。ヒロイン役クレア演じるフランスの女優エマニュエル・ベアールがスタイリッシュで魅力的。以上個人的主観となりますがご興味ある方は是非一度ご鑑賞下さい。

■眼鏡はファッション？

視能訓練士 白井 良

私は安藤眼科医院に入職し眼鏡デビューしました。今まで裸眼でしたが、仕事では電子カルテでのパソコン業務やプライベートではスマホでのYouTube視聴が重なり、ぼやけを感じる事が多くなってきたからです。検査する際はYouTubeの見過ぎを注意していますが、実際私も見過ぎてしまっているので、気持ちはとてもわかります。いざ実際に作るにあたって、とても悩みました。初めて聞くブランド名や眼鏡の形、フレームの素材やレンズの多さに驚きました。視能訓練士として患者様のライフスタイルから度数の調節・処方を担当しますが、処方箋を持ち、眼鏡店に行くみなさんは「どんな色、形にしよう」「何のブランドにしよう」などといった気持ちがあるのではないのでしょうか。実際に自分自身も眼鏡店の選定からブランドやフレームの形、素材までこだわり、数あるレンズの中から自分に合ったもので作りました。昔の眼鏡はアラレちゃんみたいで嫌だったというような声も聞いたことがありますが、今や眼鏡はファッションや表現の一部になり、コミュニケーションツールであると感じました。また、眼鏡のフレームひとつひとつにこだわりがあるブランドや素材にこだわるブランドなど製造側の思いが詰まっていることを知り、選ぶことがより楽しくなっています。提案する立場から初めて購入する立場になってこのような気づきがありました。みなさんが眼鏡を作る際は前向きになれるように、今日も検査に励んでいます。

■ひとみすっきり号運行

今年の利用者は延べ2865人、月平均239人でした(予定含む)。現在すっきり号は4台、ドライバーは5名で松田本院と小田原クリニック間、足柄上郡松田町寄地区、山北町中川地区・清水地区に定期便を運行、足柄上郡全域と小田原市については手術日と翌日診察についてdoor to doorの運行を行っています。

■ひとみすっきり号（送迎車）担当を振り返って

事務兼小田原すっきり号マネージャー補佐 土屋 志帆

私が入職した年からコロナウイルスが大流行しました。院内の感染対策をはじめ、ひとみすっきり号も患者様に安心安全にご利用いただけるように、マスク着用・同乗者の人数制限・手指消毒・体温測定・車内換気などの感染対策を実施いたしました。ドライバーの協力はもちろんの事、ご利用される患者様方の快いご協力によりコロナ禍の運行も無事行うことが出来ました。

利用される患者様の声を直接聞ける場面も多くあり、手術当日などに送迎車を利用される患者様は不安な気持ちで来院される方もいらっしゃると思いますが、明るく笑顔が素敵なドライバーのおかげで患者様も笑顔でご帰宅され、「送迎車を利用できてよかった」や「ありがとうね」という言葉をかけていただけます。また、ご友人やご家族から送迎車を利用して良かったと聞いたので利用したいと連絡頂く事もあります。今後も利用される患者様に気持ちよくひとみすっきり号（送迎車）を利用していただけられるように努めてまいります。

患者様の目線で

ドライバー 井上 克視

縁あって安藤眼科医院に入職させていただき、早6ヶ月を過ぎました。現役時代？の大半は医療機器の開発や販売、保守などの業務をしていましたので今回も天職、腐れ縁かなあ、なんて思いながらも自分の仕事は医療から離れた「患者様の送迎ドライバー」でして眼科領域は初めてで院内の業務はさっぱりわかりませんでした。元来、クルマの運転は好きですし、クルマの整備や清掃も得意なので楽かと思いましたが、怖〜い先輩たちの指導の下で生身の人間を送迎する上での繊細な気遣いを学ぶことができました。今では怖〜い先輩たちも同年代の気の合う仲間となり、楽しく業務を行っています（笑）。また、白内障や緑内障など今までは馴染みのない病気でしたが9割方が御高齢者の罹患する病気ということも知りました（いずれは我が身も）。送迎の際に患者様から多く聞くのは院内スタッフの親切、的確な対応への感謝の言葉です。患者様目線で自分も安全に患者様を door to door でお送りし、往く時は不安を和らげ、帰りは安全に御自宅までお見送り、後日、「安藤眼科で治療して良かった」の言葉を聞くことを励みに、これからも勤務したいと思えます。



■新入職員に聞きました。安藤眼科医院はいかがですか？

安藤眼科医院に入職して

看護師 財原 愛佳

安藤眼科医院に入職してから半年経ちましたが、あっという間に時間が過ぎ去った感覚です。最初は点眼の正しい方法も知らず、毎日様々な新しい事を学んでとても刺激的でした。わからないことばかりでしたが、先輩方がとても親身になって教えて下さったので、少しずつ出来ることが増えてやりがいを感じています。以前の職場でも白内障の術前後をみていましたが、繰り返しの点眼・手術室の送り迎え・30分安静を行うという簡単なことしかしていませんでした。入職してから、手術の計画や患者さんの生活の注意点を看護師が考えていることに驚きました。患者さんも意識がある状態で手術することに不安を訴える方がいますが、術後はよく見えるようになったと満足されている方が多く、よかったですねと自然と笑顔になります。患者さんには「安藤眼科の方は皆さん優しいですね。評判いいですよ。」とおっしゃる方が多く、先輩方を見ていると問診時に患者さんの目線より下に屈みこんで対応されていて、とても丁寧だなと思いました。多職種のスタッフとも気軽にコミュニケーションをとっていて、働きやすい職場環境だなと感じています。いつも穏やかな気持ちで出勤できるので安藤眼科医院で働けて良かったです。一日でも早く戦力になれるよう励みますので、今後ともご指導よろしくお願い致します。

安藤眼科医院に入職して

事務 福山 千恵

2023年2月13日より安藤眼科医院に入職しました。以前は調剤事務・登録販売者として薬局勤務をしておりました。薬局では患者様の処方箋を受けてお薬を調剤するので、お薬からその症状を推測して患者様にお伺いしておりました。このお薬が処方されたのであれば、白内障・緑内障・花粉症の症状かと。最近では同じ処方の薬でも先発品（最初に出たお薬）や後発品（効き目や主成分が同じジェネリック薬）での処方を患者様に合わせてお出しするお手伝いをしていました。一般用医薬品の販売も症状から取り扱いをしている商品でお客様のご希望に沿う様にお勧め致しました。医院の業務は患者様の症状をお伺いし、必要な検査をし、先生の診察に入ります。その後も必要に応じて追加の検査を行ったり、手術・注射の予定を立てたり、お薬の処方を出したりします。治療法によっては他院に紹介状を書いて受診のお手続きをして、今までとは違う順序で患者様のお手伝いをしております。眼科は内科・小児科・皮膚科・整形外科等とは違い診察をする対象がとても狭くて小さい場所です。しかし、全身の病が隠れている場所でもあります。

私が先生の診察に付いていた時に、『目は宇宙』と仰っていたのが印象的でした。オプトスやその他の検査で撮影された画像は目の奥の世界を映し出して本当に宇宙のように見えます。この宇宙を見る為には瞳を広げる散瞳剤を点眼して時間をおいて先生が検査をします。患者様が来院されてから診察が終了するには長時間に亘ってします事を改めて実感致しました。そして、いかに患者様が来院され受付からお会計までがスムーズに回る様に各部署で最善を尽くして試行錯誤して現在の安藤眼科医院になり、日々多くに患者様の受け入れが行えるのだと感じました。入職して多くの方々にご指導を頂き、ご迷惑をお掛けしております。失敗も多々ありますが、日々学びながら1人でも多くの患者様の宇宙を守る手助けをしていきたいと思っております。これからもよろしくお願い致します。

安藤眼科医院に入職しての感想

臨床検査技師 羽山 和希

私は幼少期から目が悪く眼科をよく受診していました。何度も通っていくうちに眼科を身近に感じ、いつからか眼科に対して強い憧れを抱くようになっていました。その強さは小学校の卒業文集で『将来の夢は眼科医になること』と目を輝かせて書くほどでした。眼科医になる夢は叶えることができずでしたが、ご縁があり臨床検査技師として安藤眼科医院で働かせていただけることになった時は夢が叶ったようで目頭が熱くなったのを覚えています。実際に働いてみてからは未経験ゆえに初めての検査におどろいたり、患者さんへの対応や手術室での作業といった様々な状況に臨機応変に対応しなければならない毎日、慣れない業務から失敗をすることも何度かありました。ですが、同時に一人前の眼科検査員を目指すことが形は違えど叶えられなかった夢を叶えることに繋がっていくと実感しました。今は目端の利く眼科検査員になることを新しい目標にして、一つの事柄にとらわれるのではなく複数の検査を関連させる多角的な視野でデータを見る力や、患者さんとの会話で正確な状況を把握するコミュニケーションスキルなど自分に足りていない部分を磨いて成長することを心掛けて毎日の業務に取り組むようにしています。至らない点も多いですが、脇目も振らずに努力する所存ですので温かい目で見ただけであれば幸いです。

安藤眼科医院に入職して

臨床検査技師 藤野 佑美

安藤眼科医院に入職しこれまでを振り返ると、諸先輩方含め多くの方々に支えられていることを改めて実感します。入職当初は眼科というこれまでと全く違う分野であることや、患者様との接し方を1から学んでいくことへの緊張もあり、不安を抱えたまま毎日があっという間に過ぎていきました。そのような中で、職員の方々が挨拶や声をかけてくださることで、緊張や不安が徐々に和らいでいったのを覚えています。業務に対する質問にはその都度丁寧に答えてくださったり、ミスに対しては的確にアドバイスをくださったりと根気強く指導していただき感謝しています。そして実際に検査を行うようになると、見え方に対する不安など患者様の様々な思いを知り、検査の重要性和その責任をより一層意識するようになりました。半年の間、日々たくさんの方々のことを吸収できる環境で学ぶことができ、検査を行う際に自分なりに考えるタイミングが本当に少しずつですが増えてきたように感じます。今後は患者様に寄り添えるよう、検査技術含め専門的な知識も身に付けていきたいです。まだまだ失敗や戸惑うことも多く、皆様にご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、少しでも早く貢献できるよう努力して参りますのでこれからもよろしくお願い致します。

■ スタッフ

常 勤 医	： 安藤 浩 近藤 亜紀	安藤 展代 辻 明	江口 亮	石川暢子	戸野塚敏恵
看 護 師	： 井上 拓己 香川奈美子 財原 愛佳	甲斐 智美 加藤 知佳	榎本 和美 露木 ちか	松山さやか 工藤奈津美	藤田 孝枝 鈴木 理絵
臨床検査技師	： 木村 智嘉 梅本 和希	志村 舞 今田 博久	十文字 恵 飯嶋希和子	新村 瑞希 藤野 佑美	成瀬 弘紀 羽山 和希
視能訓練士	： 山口 優希	白井 良			
検査看護補助	： 山室 智子 矢部 美佳	高橋 京子 田近麻里絵	山川久美子 小林 千絵	岡田真由子	鈴木亜也子
事 務	： 加藤 晃仁 近藤 里奈 関 麻子 土橋 祥子 生水 里美 伊部 誉子 福山 千恵	小寺 弥生 波多野麻里亜 奥村 明奈 木村芽久未 星野 友美 五十嵐優希	加藤 明子 山口いづみ 本多久美子 関野 芙美 小島 絵美 金園 藍	山岸 友希 宮下千加子 渡辺 孔美 高田 里沙 鍵和田利奈 土屋 志帆	飯山百合子 鈴木 雅美 町田 裕子 熊本 靖代 野地 真弓 権守 愛莉
ドライバー	： 和田 弘	生沼 等	松島喜久朗	田代美佐夫	井上 克視

【赤字：産休中あるいは育休中 青字：今年の新入職員】

■ 2023 年皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々です。拍手！

甲斐智美 小寺弥生 山室智子 高橋京子 木村智嘉 宮下千加子 鈴木雅美 渡辺孔美 新村瑞希 露木ちか

■ 次の方が退職されました。お疲れ様でした。

米山俊彦さん、堤夏樹さん、瀬戸桃子さん

■ 編集後記

Annual Report 2023 をお読み頂きありがとうございます。今年のコラムも昨年と同様あえて題材を設けませんでした。コロナも5類に引き下げられ以前の生活が戻りつつある中で、昨年とはまた一味違う話題となり楽しめて頂けましたら幸いです。

今年も新しいスタッフが増え、素晴らしい人々に恵まれました。70人余りをすべて紹介することはできなかったのですが、今回も様々な考え方や思いの詰まった一冊となり、安藤眼科医院が多彩な人々で成り立っていることを感じさせてくれます。それぞれの特徴を生かしながら、これからも協働・協力しあい日々成長して行きたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



松田山からの富士 アンドロイド端末にて撮影

2023 年 12 月 編集長 成瀬 弘紀

